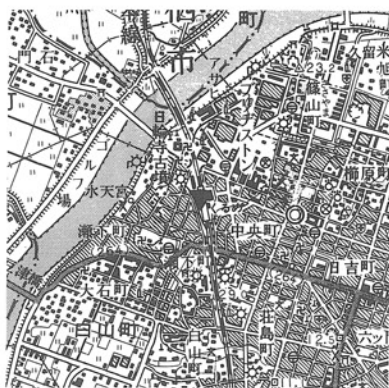


福岡・京隈侍屋敷遺跡
きょうくまざむらいやしき

- 1 所在地 福岡県久留米市京町字三丁目
- 2 調査期間 第七次調査 二〇〇六年(平18)十一月～二〇〇七年二月
- 3 発掘機関 久留米市文化観光部文化財保護課
- 4 調査担当者 白木 守
- 5 遺跡の種類 集落跡・武家屋敷跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代、室町時代～明治時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(久留米)

京隈侍屋敷は久留米城南西に隣接する武家屋敷地で、一二〇石～五〇〇石クラスの上・中級武家の屋敷が約一二〇軒所在していた。これまでの調査では、武家屋敷関連遺構の他、先行する弥生時代の集落・墓地、中世の集落などが検出されている。

第七次調査は九州新幹線久留米駅建設予定地の調査

である。南北一六〇mに及ぶ細長い調査区で、武家屋敷七軒分を調査し、屋敷割の復原などに有効な成果が得られた。

木簡は、幅五m余りで長さ一八m以上にわたって掘削された池、もしくは谷状の遺構と考えられるSX二四〇から四点出土した。この遺構は二三〇～三五〇石御馬廻組の原家が代々居住した屋敷地内に所在するもので、一七世紀から一九世紀の陶磁器、土師器などとともに、箱物・下駄・人形・羽子板など多量の木製品が出土した。近代の煉瓦も出土することから、最終的には一八八九年に開業した当時の九州鉄道(現JR九州)久留米駅建設に際し、埋め立てられたと推定される。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「<原平太夫様 市郎右衛門」
・「<弐ツ之内□□ ね三貫二百□」
125×30×3 032
- (2) ・「札廿枚之内」
・「子ノ 四月十一日」
130×20×5 065
- (3) ・「一 □□□□□ □九百本」
一 □□□九十 □□□□
一 □□□□□ □□□□
一 □□□□□ □□□□
(219)×56×7 019

(4) 「□□百本きぬはりとも二 原平太夫宿へ 原平太夫」
231×26×2 011

(1)はスギの板目材で上部に切り込みがある。(2)は樹種不明の板目材、上端右側は面取りされ、箱物底板を転用したと見られる。中位から下を羽子板状に削る。

(3)はスギの板目材。上部両隅が面取りされ、箱物底板の転用材と見られる。左方の中央部と下部は欠損している。表に三行分、裏に二―三行分の墨書があるが、墨が薄く判読できない。何らかの荷物もしくは商品の付け札と考えられる。

(4)も箱物の側板を転用したと見られる長方形のスギの板目材、上部には穿孔があるが、穿孔位置が左方に偏っているため、紐通しの穴か、箱物の底板を接合した際の釘穴であるか判断し難い。下方は折り取られている。墨書は宛名と送り主が同じ「原平太夫」であり注目されるが、「平太夫」は原家代々の名乗りであるため個人を特定し難い。原家の系譜を見ると、大阪屋敷の留守居や江戸藩邸勤務の者がおり、出張先から自宅へ荷を送った際の付け札と考えられる。なお、木簡の樹種については、(御)森林総合研究所の能城修一氏のご教示を得た。

9 関係文献

久留米市教育委員会『京隈侍屋敷遺跡 第七次調査』(久留米市文化財調査報告書二六六、二〇〇八年)
(水原道範)

木簡研究 第二五号

巻頭言―木簡を観る―

二〇〇二年出土の木簡

平川 南

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊三坪 西大寺旧境内 興福寺一乗院跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊 藤原京跡右京一条一坊 藤原京跡右京六・七条四坊 飛鳥京跡苑池遺構 酒船石遺跡 坂田寺跡 長岡京跡 平安京跡右京三条一坊六町 東寺(教王護国寺) 旧境内 中之島六丁目所在遺跡 長原遺跡 西ノ辻遺跡 鬼虎川遺跡 中野遺跡 讃良郡条里遺跡 三原石田遺跡 中林・中道遺跡 貞養院遺跡 上橋下遺跡 中村遺跡 箱根田遺跡 五合榎遺跡(仏法寺跡) 下宅部遺跡 騎西城跡 騎西城武家屋敷跡 大慈恩寺遺跡 羽黒遺跡 野路岡田遺跡 西河原遺跡 西河原宮ノ内遺跡 三堂遺跡 弥勒寺西遺跡 松本城下町跡中町 薬師遺跡 佐野城(春日岡城)跡 泉慶寺跡 仙台城跡(二の丸北方武家屋敷地区) 大古町遺跡 市川橋遺跡 志羅山遺跡 中尊寺境内大池跡 藩校明德館跡 新城平岡(四)遺跡 石盛遺跡 畝田・寺中遺跡 中屋サワ遺跡 南新保北遺跡 下沖北遺跡 浦廻遺跡 草野遺跡 屋敷遺跡 青木遺跡 黄幡一号遺跡 延行条里遺跡 浜ノ町遺跡 新蔵町三丁目遺跡 常三島遺跡 守護町勝瑞遺跡 南江戸岡目遺跡 別府遺跡 朽網南塚遺跡 下月隈C遺跡群 高畑遺跡 元岡・桑原遺跡群 一九七七年以前出土の木簡(二五) 坂田寺跡 釈文の訂正と追加(六)

志賀公園遺跡(第二四号) 元岡・桑原遺跡群(第二三号) 中世木札文書研究の現状と課題 長登銅山遺跡出土の銅付札木簡に関する一試論 古代荷札木簡の平面形態に関する考察 書評 富谷至編『辺境出土木簡の研究』 梶報

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円